

## 職能委員会報告

### 保健師職能委員会

中堅期保健師コンサルテーションプログラムについては、コロナ禍で実施困難と判断して中止とし、「2019年度中堅期保健師コンサルテーションプログラム」実施報告書を作成・発行した。産業保健師研修会はZoomで開催、東京産業保健師勉強会（自主勉強会）は年6回の開催予定であったが、コロナ禍で2回の実施に留まった。また、東京都看護協会が令和3年3月に実施した「コロナ禍における地域保健活動の実態調査」に協力した。

令和2年度は、コロナ禍により計画した研修や交流会などが実施できなかった。一方、オンライン研修などの方法に取り組むことができた。有効な研修方法の一つとして今後も積極的に取り入れていきたい。

#### 次年度

予防接種を含めコロナ関係への対応に東京2020オリンピック・パラリンピックへの対応が加わるなど、自治体保健師の業務の切迫状況は継続すると思われる。このような状況にあるからこそ地域包括ケアの実現を支えるためにも、保健師職能の能力向上と看護職間の連携強化が必要である。時宜にあった研修や交流会の開催など、さまざまな活動の機会を捉え積極的に取り組んでいきたい。また、保健師の会員数が伸びない状況から、関係会議への参加や研修、交流会等を通して入会促進を積極的に図っていきたい。

### 助産師職能委員会

委員会活動として年4回の研修会を企画したが、新型コロナウイルス感染症により、対面式の2回の研修は中止とした。メンタルヘルス研修（基礎編、実践編）は、委員会としては初めてオンライン研修を実施した。受講者は、オンライン研修に慣れており、非常に好評であった。産科関連病棟の管理者や若手助産師看護師間のネットワーク作り及び助産師の専門性を活かした地域住民へのサービス活動推進を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。

#### 次年度

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実践しながら、助産師が、高い専門性を発揮した活動を実践することを支援する。また、多職種と連携してコロナ禍における地域包括ケアの実現とを地域住民へのサービス活動を継続実践できるように医療チームのネットワーク作りを推進する。

### 看護師職能委員会領域Ⅰ

令和3年2月13日（土）に実施した研修会は職員のメンタルヘルスサポートに関して看護管理者の方々の興味が高く参加者は109名となった。多くの質問や活発な意見交換があった。委員会やその他の講演会等の企画は、コロナ禍のため中止となった。

#### 次年度

新型コロナウイルス感染症の対応は次のステージへと移り、共存・共栄のための方策が必要になってくる。患者を取り巻く新たな生活様式が求められている中で、看護管理者は危機管理やコロナ禍での働き方改革の推進も喫緊の課題である。特に中小の病院では、感染管理に関して、認知症高齢者への対応も含めた専門的な看護師の育成が必要である。また、看護師等へのタスク・シフティングやタスク・シェアリングは、待ったなしで量と質の双方が求められており社会の期待は高く、さらに高度で複雑な管理能力を求められる。

今後も地域や他職種、そして看護職間の「連携」を強化して超高齢社会とACP（アドバンス・ケア・プランニング）、労働人口の減少と労働環境改善、外国人労働者の受け入れと共存、ICTの活用や働き方改革などの課題に取り組む。

### 看護師職能委員会領域Ⅱ

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に始まり、完全収束に至らないままに終わりを迎えた。当委員会でも同様で、会議や研修も危機管理に必要な看護管理者の役割についての話し合いや研修を企画実施した。看護師がそれぞれの働く場所での感染と闘った1年であったが、この経験を「禍を転じて福となす」ように看護職能の領域を超えた連携が必要である。

#### 次年度

研修形式はリアル研修だけでなくオンライン研修も継続したい。

## 委員会報告

### 教育委員会

令和2年度は初の試みとして、研修計画の仕様をタブロイド版に刷新し、会員全員に配布できるよう変更した。計画した研修は96研修、定員4,471名であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、20研修（定員950名）が中止となった。開催した研修は76研修あり、感染対策上定員数を減らし3,521名とした。診療報酬加算研修である医療安全管理者養成研修（第1回）も中止せざるを得なかった。結果、応募者2,293名、受講者数1,912名、平均受講率54.3%となった。そのうち開催方法がZoomによる遠隔講義に変更になったのは15研修であり、開催時期を変更したのは2研修であった。認定看護管理者教育課程の公開講座については、各課程2科目ずつ計8科目を計画したが、実施できたのは「サードレベル」1科目、「セカンドレベル」2科目計3科目のみであった。

**次年度** 有事の際、研修中止を可能な限り回避し、開催できるような体制を整備する。

### 学術推進委員会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催方法を集合からライブ配信及びオンデマンド配信に変更し実施した。71演題の応募があり、上位16演題を口演発表、続く39演題を示説発表、16演題を不採択として対応した。学会参加応募者数は314名となった。シンポジウムのテーマは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況から、日本初新型コロナ専門病院を立ち上げた「大阪市立十三市民病院」の担当者3名にシンポジストを依頼（ライブ参加）、各々の立場からの発表は参加者の共感を得て好評であった。

**次年度** ライブ配信及びオンデマンド配信の運営は、遠方（他県等）者の参加を促進することができる。さらにシンポジストや特別講演等も遠方者に依頼可能であり、今後も積極的に活用したい。ただし、学会参加希望者全員がオンライン配信対応できる環境にある訳ではない。感染対策を徹底しながら、来場による参加への対応検討も必要である。

### 看護学生学会ワーキンググループ

令和2年10月19日（月）開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により会場開催を中止し、オンデマンド開催に変更し実施した。感染拡大で実習開始が大幅に遅れ、学内演習に切り替えられるなど学習面で影響が出ている状況にもかかわらず12演題の応募があった。11月1日（日）収録、12月1日から令和3年1月末までの配信予定であったが緊急事態宣言延長により1か月延長し配信した。視聴数は27校、約1,700名となった。

**次年度** オンデマンド開催が決定している。新型コロナウイルス感染症の感染状況により看護系学校の臨地実習が制限されているため、演題が集まるか懸念される。発表内容の検討及び募集時の対応を検討し、学生が参加しやすいようにしていく。

### 認定看護管理者教育課程・教育運営委員会

ファーストレベル、セカンドレベル、サードレベルを各1回開催した。  
ファーストレベルは第1回を中止せざるを得なかったが、第2回を全リモートで開催した。中止となった第1回受講予定者は次年度第1回に振り替えとすることを決定した。3課程ともに、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて集合またはZoom参加等が選択できる体制を整え、ハイブリッドでの開催も取り入れた。3課程の受講者全員が、途中辞退もなく無事に各課程を修了した。

**次年度** 有事の際、柔軟に研修運営が可能となる体制の整備、応募者多数の場合の受け入れを検討する。

## 社会経済福祉委員会

看護職の勤務環境改善は、診療報酬加算である「看護補助者の活用の推進のための看護管理者研修」を継続で2回開催した。また、看護補助者と看護職が利害を超えて協働するための支援として「看護補助者のための研修」も継続して実施した。

看護職のタバコ対策の推進は、日本禁煙学会認定の卒煙サポーター研修を継続実施した。

### 次年度

看護職に向けたタバコ対策支援として会報にチラシを同梱するなど看護職の勤務環境改善のためのイベント企画を予定している。

## 看護制度委員会

看護師学校養成所2年課程進学に向けての説明会について新型コロナウイルス感染症対応としてWeb開催ライブ配信で開催した。参加者は11名であった。2年課程進学に向けての説明会では、受講者が少なかったため、周知期間・方法について再検討し、受講者増加を目指したい。従来、進学を希望している准看護師が受講しているが、希望していない准看護師にも受講してもらい、進学への関心を持てるような企画もしたいと考える。

### 次年度

2年課程進学に向けての説明会の受講者の大半が奨学金のことを知りたいと回答していることから、説明会の中に進学に関する経済面のことも含めた内容とする。

准看護師のスキルアップ支援として、看護実践に役立つ最新情報の提供や他施設の准看護師との交流を通して、モチベーションアップや進学を考える機会となる企画をしたい。

## 医療安全委員会

医療安全管理者養成研修は2回実施予定であったが、5月開催の第1回及びフォローアップ研修は緊急事態宣言が発出されたことにより中止とした。医療安全管理者研修は、施設課題の共有や施設間の協働推進など、演習等を含む参加型研修とすることに大きな意義がある研修だけにリモート開催への不安もあった。受講者同士のコミュニケーションや課題の共有等は集会で実施するフォローアップ研修で補うこととしたい。

リスクマネジャー研修では、施設の医療安全にかかわる多職種のリスクマネジャーが交流し課題を検討した。主に、薬剤師の参加と看護管理者も多く参加し組織的対策の重要性について共有した。

### 次年度

医療安全管理者養成研修を2回開催予定である。日本看護協会主催の「医療安全管理者養成研修」オンデマンド講義を採用する。集合演習は5時間となっており、開催方法も含め十分な検証をしていく。また、リスクマネジャー研修の開催、フォローアップ研修を予定している。

## 広報委員会

令和2年度は、コロナ禍でも執筆者のご協力などにより充実した内容の会報を発行することができた。新型コロナウイルス感染症の内容についてはタイムリーに発信できた。また、表紙デザインが好評を得た。

会報発送方法の変更は、施設担当者の負担軽減、所属変更があっても直接個人の手元に届くなど、個人宛発送にしたことで、会員が手にする機会も増え、確実に目を通してもらえるようになり情報提供の充実につながった。

地区支部情報掲載は、当該地区のみでなく他地区の情報や活動内容を把握し、自地区の活動の参考にできるようになった。

### 次年度

編集計画については、看護職自身が心身と向き合い、セルフマネジメントできるための方法など、リフレクションの紹介や取り組み等を検討する。また、病院、訪問看護等々、この1年困難であったこと、工夫して活動したこと等を紹介する。

---

## 感染対策委員会

委員会主催研修を計画通り年3回（7月・10月・11月）実施した。テーマは当初「結核感染症」「冬の感染症」を予定していたが、トピックスである新型コロナウイルス感染症に絞ってテーマを変更した。アンケート結果より、満足度は90%以上で高評価を得られた。

### 次年度

令和2年度同様、研修会は年3回開催を予定とし、開催方法は感染状況に応じてオンラインと集合研修を併用しながら実施する。テーマは新型コロナウイルス感染症対策が必要もあり関心のあるテーマと考えるが、ワクチン接種開始やオリンピック・パラリンピック開催などもあるため、状況を見ながらニーズに合った内容とする。また、感染対策の基本は標準予防策であり、状況を見て少人数での集合研修で実技演習も検討する。

令和2年度の第1回は応募者も多かったが、第2回、第3回は20名程度であったため、募集案内の方法や受講対象者の枠を拡大するなど検討する必要がある。

---

## 災害対策委員会

令和2年度はコロナ禍のため、GW(グループワーク)や演習を多用した研修を実施することが困難であったが、現地とオンラインのハイブリッド開催で養成研修を実施し、新規登録者を増やすことができるなど、オンライン研修のメリットも実感できた。

### 次年度

新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて集合研修とオンライン研修を併用しながら、災害支援ナースの登録・更新研修を実施したい。

また、令和3年は東日本大震災から10年の節目であり、災害看護の意識を高めることを目的に、災害支援ナースの活動PRやシミュレーション研修等を企画していきたい。

---

## 子育て支援委員会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、両親学級、すくすく広場、すくすくフェスタ、出前授業等、都民に向けたすべての事業をオンラインで開催した。可能な限り講師と参加者が双方向性で参加できるように、回を重ねるごとに運営方法を工夫しながら実施したことにより、いずれも参加者の高い評価を得ることができた。特に両親学級は毎月開催であり、助産師委員と協力員の多大な尽力により、開催することができた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、すべての事業がオンライン開催となったが、両親学級では参加者の希望が多い沐浴体験を提供することができなかった。看護職者への学習会や子育て関連の事業の案内が十分に行き届いていない可能性があった。

### 次年度

可能な限り参加者のニーズに添えるよう、オンライン開催の利点は活かし、不十分な箇所は何らかの方法で補えるよう内容を検討する。

より多くの看護職者が本事業を利用できるよう周知方法を検討する。

---

## 地域包括ケア委員会

地区ごとに計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、活動は各地区とも制限された。その中でも、新型コロナウイルス感染症に関わるアンケート調査やインタビューなどを実施し、対面での活動にはつながらなかったが、次年度につなぐ課題は把握できた。

### 次年度

新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けた活動が中心になってくると考える。ワクチン接種が開始されたが、医療従事者も含め2回目の接種が終了する時期が見通せない状況であり、令和2年度の課題の具体的な対策が必要である。

看看連携により情報収集や情報共有など積極的に行い、課題解決に向けて取り組むことが求められる。また、地域で活動する保健師との連携が必要であり、生活の場である地域を含めて活動していくことが課題である。